



たより vol.28



季節の行事

お月見



祥雲閣からのお知らせ



祥雲閣では、四季折々の庭園を眺めながら、テーブルと椅子を設置した立礼茶室(椅子にお掛けいただくお席)で、気軽にお茶とお菓子を楽しんでいただけます。



今年の十五夜は9月21日でした。満月の日と重なり天候にも恵まれたこともあり、美しい月を眺めた方も多いのではないのでしょうか。

お月見は中国から伝わり、月の神様に薄やお団子を飾り、豊作に感謝をする行事です。この時期に収穫される芋の名をつけて「芋名月」とも呼ばれます。

十五夜と十三夜のどちらかを見るのを「片見月」と呼び、両方を見ると「縁起が良い」と言われるそうです。十三夜は満月になる前の少しだけ欠けた月で「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。



今年の十三夜は10月18日です。一年で一番月が美しいと言われる「中秋」に名月を眺めて、秋の夜空を楽しんでみてはいかがでしょうか。

※諸説あります。



日曜日から金曜日は抹茶、土曜日は煎茶の提供を始めました。「忙しい」そんな時ほどゆっくりお茶とお菓子を味わうのもおすすめです。



大崎市祥雲閣

令和3年9月29日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385



季節によって変わる

茶室のしつらえと茶道具

茶室のしつらえは十一月から翌年四月を「炉（ろ）」、五月から十月を「風炉（ふうろ）」としています。



寒くなる「炉」の季節は、畳に炉を切って釜をかけて、茶室全体が温まるようにします。

炉は「囲炉裏」から取り入れられたもので、寸法や切る位置に決まりがあります。風炉の季節は茶室が涼しく感じられるよう客から遠い位置に風炉を置いて釜をかけます。



十月は風炉と炉の変わり目です。冬が近づき肌寒くなると遠ざけていた風炉を客の方へ置いて火の温もりを近づけます。

風炉の終わりの十月は名残りの月と呼ばれ、夏の残り花を飾り、鉄製のやつれ風炉など侘びた道具を使います。秋分を迎え、夏の終わりに寂しさを感じつつ、質素で簡素な中に奥深いものや豊かなものが感じられる侘びの風情が深まる季節です。

カレンダー

※ 休館日、○は煎茶提供日です。

10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	19
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31	
31																				

所在地 大崎市古川福沼一丁目2-2

電話 0229-24-3385

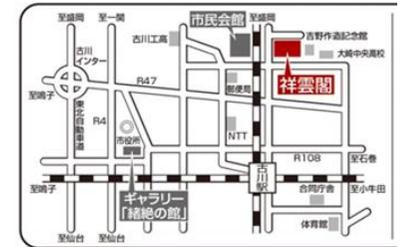
交通 JR古川駅から徒歩約20分
東北自動車道古川ICより車で約10分

駐車場 有

休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）

入館料 無料

呈茶の場合は抹茶・煎茶ともに菓子がついて500円



祥雲閣「秋の風景」

